クリスマスのカタチ

今は既に無いのですが、とあるご家庭の大きな樅ノ木を覚えています。クリスマスになると決まって懐かしく思い出すのですが、庭木も何十年を共に生きると、家族と一緒なのかも知れないとその時に考えました。そういえば田舎の母が植えて楽しみにしていたシャクナゲを、亡き後にもらい受けて庭に移植したのですが、20 年を過ぎて、ようやく毎年花を楽しめるようになりました。樹々や草花について普段あまり意識していませんが、若葉、開花、落葉などの折々にハッと気付かされます。常緑の針葉樹である樅ノ木は、なんといってもクリスマス・ツリーでしょう。夜空に凛と輝く樅ノ木を見て喜ぶ子供たちの歓声のために、10 年を捧げた主の思いやりは、心に響き、冷えた身体を暖かく包んでくれます。だから寒い冬の思い出は忘れられません。

おじいさんとおばあさんからのラストメッセージ（上の写真のパネルから）

・・・ ○○○丁 目 のクリスマス・ツリー ・・・

1．電球は何個あるの？・・・2,４００個くらいです。

2．木の高さはどのくらい？・・・１０mくらいです。

3．どうやって電球をつけるの？・・・木登りの得意なお兄さんとお姉さんが木のてっぺんまで登ってつけます。
４人で 12 時間くらいかかります。

4．何年前から飾っているの？どうして始めたの？・・・１０年くらい前です。子供たちの喜ぶ声が大好きだからです。

5．あと何年くらい飾るの？・・・今年が最後なんです。永いこと有難うございました。
良いクリスマスを。

・・・・ モミの木を育ててきたおじいさんとおばあさんより

こうして最後の仕事を終えた樅ノ木ですが、ご夫婦のご希望でしょうか、玉川学園大学構内の池の周りに移植されました。手入れの行き届いた樅ノ木は形もよく、近くを通るたびにいつも見ていました。何度かの学園の改装があり池の周りは変わりましたが、今も愛された立ち姿でいるのでしょうか。

ご夫婦のお住まいは建て替えられて新しいご家族を迎えました。どなたがお住まいかは知らないのですが、この土地、この場所にあの樅ノ木があったことを覚えていたいと思います。毎年何名かの学生が命綱をつけててっぺんまで登った樅ノ木、皆で声を合わせて一枝一枝を飾り付けた樅ノ木、身内だけの楽しみだったでしょう、イルミネーションの点灯式、そうした家人と支えあった長い年月を、樅ノ木は今も覚えているのでしょうか。

クリスマスの夜に何度か愛犬と歩いた樅ノ木に向かう階段の道は、今は歩けなくなりました。それでもあの樅ノ木は私の宝物です。クリスマスが近づくと、あの樅ノ木はどうしているのだろうと、ふと思い出します。クリスマスの忘れられない思い出として。賑やかに親しい人たちと過ごすクリスマスも素敵ですが、ご夫婦の愛と樅ノ木の奏でる静かなクリスマスも素晴らしい。そこでは人の思いやりに包まれて輝く樅ノ木と、飛び跳ねて喜ぶ子供たちが主役です。

同じ町内ではイルミネーションの盛んな時代がありました。見物の車で渋滞も起きましたが、住人の高齢化もあり、徐々に静かになってきたようです。その一番のきっかけは 2011 年 3 月 11 日の東日本大震災でした。表参道や大手町で、また神戸や全国でも、イルミネーションが消えた鎮魂と自粛の時代です。今はそこまでの規制はないのでしょうが、コロナ禍もあって静かな時代が続いています。

この地区のホーム・イルミネーションは、各戸の個性的な装飾と、年ごとのテーマやストーリー性が素晴らしかった

私がクリスマスの記憶に残る思い出とした、大きな樅ノ木とやさしいおじいさんとおばあさんの話は、どこにでもある季節と自然、子供と大人の描く物語です。日本の秋は素晴らしいと、紅葉狩りを楽しむ外国の方々がニュースで取り上げられますが、目に見える景色の多くは、長い時間を人の手で磨かれ、慈しまれた風景であることが多い。そこにはきっと人の心のぬくもりと思いやりが流れています。

そして現在の日本の珈琲もまた、長い時間を人の手で磨かれ、慈しまれて来ました。「さあ、あとは任せた」という先人たちの声が聞こえてくるようにも思える、凛とした師走です。

来年も一杯の珈琲とともに、確かな一歩を明るく歩み出せればと願っています。

今年もありがとうございました。皆様、良いお年を。

2022.12.20

有限会社カフェグッズ　小林 文夫

© 2022 Cafegoods Co., Ltd.